

| 令和8年度までの目標 | 国語         |     | 算数         |     |
|------------|------------|-----|------------|-----|
|            | 自校 AB 層の割合 | 60% | 自校 AB 層の割合 | 60% |

## 目標達成に向けた取組

| 3つの観点              | 教員の指導力向上  | 基礎学力の保障   | 学習習慣の確立  |
|--------------------|---|---|--|
| 学校全体の取組            | <ul style="list-style-type: none"> <li>校内 OJT による年 3 回の授業参観を実施する。</li> <li>学習スタンダードを検討・確立し、徹底させる。</li> <li>若手研修会を実施し、授業改善の視点をはっきりさせ取り組む。</li> <li>高学年を対象とした教科担任制の導入をし、教員の専門性を高める。</li> <li>「学び合い」を重視した授業の質的転換を図り、児童の対話的な学習を促す。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>板書や児童ノートを構造化する。</li> <li>学習スタンダードを徹底する。</li> <li>児童の発達に合わせ、各学年の使用ノートの系統化を図る。</li> <li>東京ベーシックドリル・テストを活用し、児童一人一人の課題をつかむ。</li> <li>成績集計ソフトを活用した児童の成績の変容を把握する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習時間の設定</li> <li>毎日の家庭学習（読み・書き・計算）</li> <li>「江戸川っ子スタディウィーク」を活用した算数科を中心とした基礎・基本の定着を図る。</li> </ul>                  |
| 特に支援が必要な児童・生徒への手立て | <ul style="list-style-type: none"> <li>考える視点を与えるヒントカードを提示し考える視点を明確にさせる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>放課後補習教室と連携を図り、CD 層の基礎学力の定着度を把握し、サポートする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>一律の家庭学習だけではなく、児童の実態に応じた個別課題設定による取り組みを実施する。</li> <li>個に応じて一人一台タブレットを活用した、視覚的にも楽しく学習できる課題に取り組むことができるようにする。</li> </ul> |
| 成果指標               | <ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力調査質問紙「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか」の肯定的な回答の割合、70%</li> <li>「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定的な回答割合 70%</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシックドリル診断テスト 7 割達成者 80%以上</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力調査質問紙「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか」の 1 時間以上の回答割合 70%</li> </ul>  |

